

mail magazine
noichi

no.92_January 2019

Published by an e-mail magazine editorial department.
All rights reserved. © utanoichi okuda. No part of this publication may be reproduced without the written permission of the Publisher.



第九十二号

新年の抱負

メルマガnoichi92号、新年最初のメルマガは、雅楽之一が「新年の抱負」を述べさせて頂きました。

本年もメルマガnoichi編集部一同、質の高いメルマガを制作して参りたい所存です。

本年もよろしくお願ひ申し上げます！

二〇一九年の開幕にあたり、編集部では奥田雅楽之に新年の抱負を聞きました。公私にわたる質問をいくつかしてみましたので、最後までご覧いただけましたら幸いです。本年もメルマガ《noich》をよろしくお願いいたします。

メルマガ《noich》編集部

——二〇一九年を迎えた心境はいかがですか。

今年はずっと元号になる年ですね。

昭和を長く生きた方が「あれは昭和〇〇年の出来事」という風に、きちっと過去のお話をしてくれたものですが、自分は平成を丸ごと知っていても、全然整理されていない

ことに啞然とします(笑)

——この年末年始はどのように過ごしましたか。

オランダに嫁いだ妹家族が帰って来たので、久しぶりに一家団欒の時間を持ちました。今年は年始のお仕事もなく、正月らしい正月を過ごしました。でも、のんびりし過ぎるのも調子狂いますね。僕は少々忙しいくらいが、性に合っているように思います。

——昨年は胡弓、昨年は十七弦を演奏する機会が多かったですね。今年はこの楽器に力を入れたいですか。

胡弓にせよ、十七弦にせよ、演奏する機会が多かったというのは、たまたまその時に頼まれた楽器がそれであったということですが、やはり人前で演奏する機会を頂くと身



が入りますからね。ここ二年はいい勉強をさせてもらいました。胡弓は玉三郎さんのご指導が得難いことで、私の価値観が大きく変わりました。十七弦に関しては、中島靖子という名手が側にいるので、いつも頼りにしています。祖母

は細かいことは言いませんが、感想を率直に言ってくれます。恐いことですが、有り難いことです。胡弓も十七弦も、もつと研究していく必要を痛感しています。胡弓も十七弦も、芸能に携わっている以上、三弦と箏が重要なんですね。あと唄ですね。これらを磨くために、古典作品へ気持ちの比重を置き、挑み続けることは私の揺るがない勉強法であり、ライフワークです。

——春には正派の副家元に就任されますが、これまでと変わるところはありますか。

新たに宗家という立場になる祖母、家元を継承する母、二人の側で学び、時には支え、自分にとって大切な経験を積ませて頂こうと思っています。また、一人でも多くの人と触れ合い、親交を深めていくことも私の希望であり、役目であると思っています。

——秋には初リサイタルを開催する予定になっていますが、どのような会になりそうですか。

はい、本年十月三十日に東京でリサイタルを開催します。自主開催でリサイタルをするのは初めてのことです。超一流の諸先生方にお力添えを頂き、私自身努力して、お客様に満足して頂けるような会を企画したいと思っています。多くの方にご来場頂きますことを願っております。

——作曲についてはどうでしょう。新しい作品は生まれそうですか。

初心者向けの小品として《子どももの情景》という組曲作品の中から、すでに幾つか発表していますが、これは「一月」〜「十二月」まで全十二曲から成る組曲で、あと数曲で完成します。いち早くこちらを仕上げて、楽譜にして、CDにして、沢山のの人に弾いてもらいたいです。それから、今年から

祖父が創設メンバーの一人で会長も務めていた「現代邦楽作曲家連盟」の一員に加えさせて頂けることになりました。会員として、恥ずかしくない立派な曲を発表していけるよう、気持ち新たに臨んでいきたいです。

——今年が四十歳となる年ですが、何か新しいことを考えていますか。

男性の四十歳って、古くから伝えられるところの前厄なんですってね。年末に知りました(笑)

健康と事故にはくれぐれも気をつけたいと思いますが、出足が鈍っても困るので、他はあまり気にしないでおきます。義兄が面白い人で、占いをするんですね。いつも僕のとまで気に掛けてくれるんですけど、年始にゆつくりお話しをする機会があったので、僕の前厄について聞いてみました。お義兄さんは、僕はもう既に厄を終えてるって言うんですね。へえ、それはよかったです。そういうのは、すぐ都合のいい方を信じちゃう(笑)

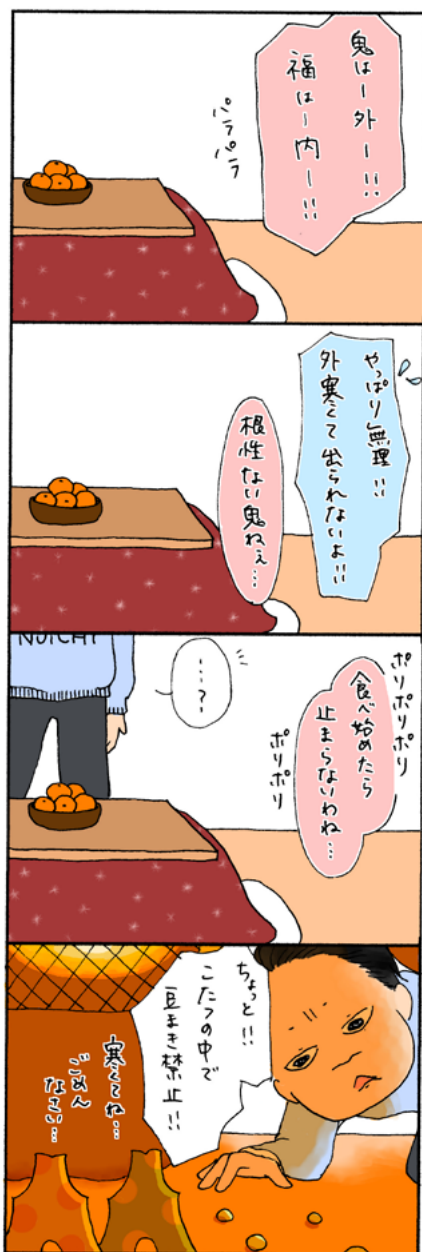


Illustration: morimoe

——今年こそ買いたい物、行きたい所はありますか。

先日、僕の草臥れた私服を見兼ねた妻が、洋服と靴を選んで買ってくれました。僕は物欲がないので欲しい物はありませんが、行きたい場所は沢山あります。本当は海外旅行をしたんだけど、なかなか時間も取れないし、娘もまだ小さいから、とりあえず国内ですかね。行ったことがない場所では、北の方では知床に行ってみたり、南の方では小豆島かな。

——最後に、読者の皆様に一言お願いします。

いつも一個人のメルマガをお読み頂き、ありがとうございます。毎月、このようにしてご報告の場を持てますことは、私にとつて大きな支えであり、励みとなっております。今年も楽しみながら、メルマガを続けていきたいと思っています。次第です。今後とも、お付き合頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎あとがき◎

娘が小さかったところに、何度か海外に連れて行ったことがある。「小さすぎて覚えてないでしょ?」と言われることが多く、確かに小学校に行く前の旅行はあまり記憶にないようだが、親が行きたかったただだから、それは気にしないことにした。たしかに日本では赤ちゃんを連れて海外に行く人は少ないのかもしれない。でも機会があったらぜひヨーロッパなどに子供連れで旅行に行ってみて欲しい。

東京ではベビーカーで電車に乗るのも怒られそうなので、恐る恐るという感じだけど、海外は都市部でもまったく事情が違う。特に印象的だったのはロンドンだ。日本で西洋の赤ちゃんが可愛らしく見えるのと逆に、東洋の赤ちゃんがヨーロッパで人気なのは理解できるが、電車などに乗った時のイギリス人の眼差しの優しさには驚いた。花をもつたり、ティーペアをいただいたり、もう気持ち悪くないの笑顔でみんな見守ってくれた。若い頃に一人で行った時の印象とは全く違って、イギリス人のイメージが変わってしまったくらいだ。だから雅楽之一にも一度、子供連れで海外に行ってみて欲しい。悲しいことだが、東京がいかに子供に冷たい都市か、実感してもらえと思うのだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

